

取付ガイド

サステナーは“きしむ音”を出し、脈動し、ギター信号を“グランジ”風にする（“静電”または“汚れた”音が信号と混ざる）

- 音量を下げたときにシャー、ギューと音がする場合は、ボリュームコントロールの高端と中間端子の間に330 pFのコンデンサを挿入します。これでノイズを抑え、低音量時の信号音も良くなります。
- 8ピンコネクタの白色/オレンジ色のワイヤは短く切らないこと。クロストークを防ぐために短くする必要があります。ステップ4を参照。
- ドライバまたはブリッジPUの近くにあるピックアップ上の金属箔または導電コーティング。これをピックアップ領域から除去しないとサステナーは正常に動作しません。Stratocasterではタブの磁気“ヌル”調整は不可能になります。箔覆い付きピックアップはすべてクリアに削除してください。“ミラー”や金属製のピックアップもこの問題を引き起こします。
- 8ピンコネクタのグレー/バイオレット色のワイヤは、他のピックアップ信号線や白色入力線に近すぎます。10ピンコネクタの茶色/グレー色のワイヤも同様です。これらのワイヤを特定の場所へ移動することでグランジ/シャーが解消される場合は、その場所で固定してください。電子キャビティがワイヤや回路で充満している場合はシールドする必要がありますかもしれない。
- ドライバーワイヤーは磁氣的に一部のブリッジPUと“トーク”します。ブリッジPUから離すようにしてください。ブリッジピックアップキャビティ外へ配置するか、ブリッジピックアップの下に溝を掘ってそこにドライバーワイヤーを接着またはテープで固定します。わずかな距離が大きな差を生みます。
- ドライバ（トランスデューサ）シールドが接地されていません。接続図を参照。
- ドライバシールドは最後の1インチ（25mm）まで保持してください。
- GAINが高すぎます。GAINトリムを反時計回りに回して低いレベルに設定してください。
- ピックアップスイッチの配線が正しくありません。サステナーON時にはブリッジPUのみが機能する必要があります。確認してください他のピックアップのポールピースを軽く叩いてこれを確認します。サステナーON時に他のPUが機能する場合は、8ピンコネクタの配線を確認してください。
- ストラトキャスターの場合、磁性ヌルを適切にキャンセルするタブの位置が正しくありません

コントロールを基音モードに設定すると、サステナーは主にハーモニクスを作り出します

- ハーモニク/ドライバポット（またはトグルスイッチ）が正しく配線されていることを確認してください。もしYESなら&&。
 - 赤線と黒線を入れ替えてドライバの極性を反転します。（基音モードは時計回り、ハーモニクモードは反時計回りでコントロールを回す必要があります。好みも逆でも同様です）
- 周囲。そうでなければ、どちらのモードも正しく機能しません。）注: EMGなどの一部のPUは通常とは逆極性です。これらのPUは
- hookup図に示されているものからドライバの極性を反転させる必要があります。

サステインが弱い

- ドライバとブリッジPUを弦に近づけます。特に細い弦の近くで。両方ともあそステイナーのゲインに対して、深く等しい効果を与えます。
- ドライバの極性を反転してください。特に、ノーマルモードで弱いハーモニクスがほとんど出る場合。
- ギターコードが一部ショートしており、信号レベルが下がるものの、いくらかは通過します。
- トーンコントロールが☒ベース☒設定になっています。トーンコントロールの配線が間違っている可能性があります。
- 回路基板上のゲイン・トリムポットが低すぎます。設定を上げてください。高すぎる設定を入れると、制御不能なキsq ueal（キーキー音）やパルス発生が起こることがあります。この場合は、磁場キャンセルタブの調整手順およびその他のキsq ueal防止の提案を見直してください。

ネックピックアップ機能なし

- バッテリー電圧が約7ボルトまで下がると、ネックピックアップが動作しなくなります。電池を交換してください。
- トリムポット（10ピンコネクタ付近）が下げられています。これを適切なピックアップのボリュームレベルに調整してください。
- サステイナーをOFFにするとき、ネックピックアップ・プリアンプ入力（10ピンコネクタのオレンジ）は、ON/OFFスイッチを介してドライバの黒い配線に接続されていなければなりません。

Sustainiac®はManiac Music, Inc.（インディアナポリス、IN）の登録商標です。Strat®およびStratocaster®はFender Musical Instruments（スコッツデール、AZ）の登録商標です。



*** 配線基板の方向性に関するSTEP4を開始前に必ず読んでください。これを怠ると、その他すべての問題よりも多くの問題を引き起こします。***

各Sustainiac® Stealth PRO™ サステナーは出荷前に適切なエレキギターで事前検証されています。

Sustainiac® Stealth PRO™ Sustainierは電磁的で サステインシステム。無限の弦振動による無限のフィードバックサステインを生み出します。サステナーがOFFのとき、ドライバはアクティブなネックPUとして機能します。ネックPUの出力レベルは基板上のトリムポット（10ピンコネクタ付近）で他のPUと合わせられるよう調整可能です。

仕組み: まずStealth PRO™ Sustainierが楽器のピックアップ信号を電子的に増幅・処理します。次にこの増幅・処理されたピックアップ信号を特許取得済みの磁気弦へ送ります。

ドライバトランスデューサ（ドライバ）は、既存のネックPUを置換します。ドライバは脈動磁場を発生します。この磁場は楽曲の弦振動と同期します。この脈動磁場は各振動時に弦へ振動エネルギーを再付与します。振動エネルギーは通常摩擦で失われ、ノートが死んでいきます。弦振動の各瞬間にエネルギーを追加することで、振動は無限に持続します。単一の9ボルトアルカリ電池で約20時間の結合サステイン/通常演奏が可能です。使用量に応じて時間は前後します。batteryが切れると楽器は通常通り機能しなくなります。ネックPU機能はサステイン機能より先に停止します。

磁性弦ドライバトランスデューサー: ドライバはモデルによって、単一コイルPUと同等の大きさ、またはフルサイズハムバッカーPUと同等の大きさです。カラーは黒または白。7弦モデルも利用可能（黒のみ）。サステナーがOFFのとき、ドライバはハムバックド・アクティブネックPUとして機能します。ハムバッカーまたはシングルコイルサウンド用の基板設定を簡単に変更できます。ドライバが作り出す磁場は近くのPUに干渉を引き起こすことがあります。したがって、サステナーをONにすると自動的にブリッジPUが選択されます。我々の独自の（特許取得済みの）両側ドライバ設計は、他のサステナー・ドライバに典型的なこの望ましくない特性をほぼ完全に排除します。

間隔: _____ ドライバはブリッジピックアップから少なくとも3.5 in. (90 mm)（中心-中心）離して配置してください。この間隔が近いほど、発振する傾向が大きくなります（キsq uealing（キーキー音）として聞こえます）。電磁サステナーでは、24フレットを超えるギターは推奨しません。ドライバは弦に対して垂直である必要があります。斜めに設置しないでください（たとえばStratのブリッジピックアップのように）。

エレクトロニクス: サステイナーの電子回路は、小型の1枚のブレッドボード回路基板で構成されています。これは寸法は1.1 in. x 3.75 in. です。この基板は、ほとんどのエレクトロニクス用キャビティに“縁”を立てて収まります。Stratや多くのIbanezギターでは、ピックアップ・セレクタースイッチとポットの間に収まります。（取付図を参照してください。）Sustainiac® Stealth PROを取り付けるために、付属の回路基板とスイッチを受け入れられるよう、既存のエレクトロニクス・キャビティの配線を作り直す必要があります。

電池: _____ 9ボルトのアルカリ電池1本でStealth PROに電源を供給します。キャビティを掘って配線したくない場合は、クイックチェンジ式の電池ホルダーを（オプションで）取り付けるためにギター内に加工を入れたくないなら、トレモロ・キャビティに入れることも検討できます。3つのトレモロプリングを片側へ移動してください。多くのギターでは、このスペースに電池が収まります。軽微な加工が必要になることがよくあります。素早い

（低電池表示: _____ ネックピックアップ機能は約7〜7.5ボルトで動作が停止します。）

バッテリー切断：ステレオ出力ジャックが付属しており、通常の

ギターコードが接続されていない場合にバッテリーを切断します。このステレオジャックは、既存のインストールメントジャックに置き換わります。

10ピンコネクタの

10ピンコネクタ側の緑色のワイヤは、ジャックのリング端子に接続されます。モノラルのギターコードを差し込むと、緑色のワイヤはグラウンドに接続されます。サステイナーのPOWER SWITCH（電源スイッチ）をOFFにすると、サステイナーはStandbyモードになり、ドライバプリアンプはONのままなのでピックアップとして機能できます。本体はスタンバイモード時に、ネックピックアップ用プリアンプを動かすために約3〜5ミリアンペア（ma）を消費します。サステイナーを動作させるには、インストールメントコードを両方接続し、かつサステイナーの電源スイッチをONにしておく必要があります。使用しないときは必ずギターのプラグを抜いてください。抜き忘れると、バッテリーはスタンバイ状態で約100〜200時間かけてゆっくり消耗します。アクティブピックアップ（EMG'sなど）や、独自の9ボルトバッテリーで動作するピエゾプリアンプを搭載したギターの場合は、ジャックにプラグが差し込まれていないときに両方のバッテリーが完全に切断されることを保証するため、オプションの9ピンジャックを注文する必要があります。

POWER（電源）およびHARMONIC（ハーモニック）コントロール：Stealth PROには2つの主要なコントロールがあります：ON/OFFスイッチとHARMONICMODEコントロールです。これらはプッシュプル式またはトグル式にできます。お好みで選べます。必要に応じて、トグルオプション付きの25Kドライブポットを提供します。

ON/OFFコントロール：電源スイッチは、ポテンシオメータ／スイッチの組み合わせ部品で、サステイナーをノブを引き出すことでONにします（またはオプションのトグルスイッチの場合もあります）。サステイナーがONのとき、ブリッジピックアップは自動的に選択されます。シングルコイルのブリッジピックアップを備えたギター用のキットには250Kポット、ブリッジハムバッカーのギター用には500Kポットが付属しています。コントロールはコントロールのスイッチ部分のみを使用するため（「a」の

StratまたはIbanez）。

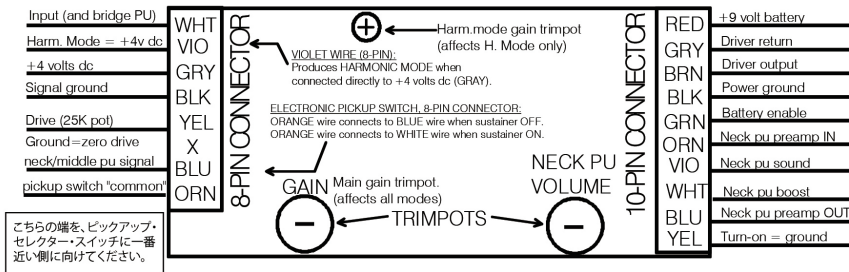
HARMONIC／GAINコントロール：HARMONIC／GAINコントロールは、250Kオームのポット／スイッチの組み合わせです。押し込むと、回転の仕方に応じてFUNDAMENTALまたはHARMONICの弦振動が得られます。いったいに右（時計回り）へ回すと、主にファンダメンタルの弦振動になります。いったいに左（反時計回り）へ回すと、強いHARMONICの弦振動になります。どちらかのフル設定から中央へ向けて回すと、サステイナーのゲインはゼロに向かって下がります。サステイナーのゲインが下がるにつれて、サステイン機能のフェードインがよりゆっくりになります。（オプションとして3位置トグルスイッチを使用できますが、追加費用はありません。）

ノブを引き出すと、さらに2つのモードになります：いったいに右（時計回り）＝MIXモードは実際には、より微妙なハーモニックモードです。MIXは高い音では主にファンダメンタルを出し、低い音では主にハーモニックを出します。いったいに左（反時計回り）では、いくつかのノートでさらに別のハーモニックモードが出ます。このコントロールは、ポット部分とスイッチ部分の両方を使用します。あるいは、オプションの3ポジションのトグルスイッチコントロールを使用することもできます。トグルコントロールのオプションでは、MIXモードは中央位置になります。

ネックピックアップブースト：白／バイオレットのワイヤ（10ピン）は、それらが

DPDTスイッチ（トグルまたはプッシュプル）で両方ともグラウンドに接続されている場合、ネックピックアップの音がブーストされます。これにより、ピックアップはハムバッカーのようなサウンドになります。これらのワイヤがグラウンドに接続されていない場合は、音はStratのシングルコイルにより近くなります。

コネクタのカラーコードとワイヤ機能ダイアグラム



サステイナーの動作確認と調整

7. 電源スイッチを動作させてサステイナーをONにします。アンプから発生するキューイン音、または「グランジ」を聞いてください。（以下の手順#11を参照。）サステイナーがONのときに、ブリッジピックアップ（PU）のみが機能していることを確認するため、ドライバブレードのようなスチール製の物で、すべてのピックアップのポールピースを軽くタップしてください。

8. バッテリー電流を測るための電流計がある場合、アイドル電流は約3または4mA程度であるべきです。ほとんどのノートのフルパワーサステインは、最初に一時的に100mAを超えてから、その後20〜60mA程度になります。実際の電流は、演奏するノートに依存します。高い音やハーモニクスは消費電流が少なくなります。バッテリーが熱くなる、または電流が60mAを超えたままの場合は、トラブルシューティングガイドを確認してください。

9. ほとんどのノートはFUNDAMENTALモードでサステインするはずですが、強いファンダメンタルが主にならない場合は、バイオレット/グレーのワイヤが接続図のとおり接続されていることを確認してください。これでOKなら、ドライバ側のリード（赤、黒）を入れ替える必要があります。（EMGピックアップの場合、リードは必ず入れ替えてください。）ハーモニックモードは、HARMONIC MODEのコントロールポット（またはトグルコントロールを使用している場合はスイッチ）によって、バイオレット/グレーのワイヤが互いにショートされたときに発生します。

10. GRUNGE/SQUEAL（グランジ／キューイン）テストと、磁界キャンセルタブの調整：

これは主にStratのみを対象にしています。ギターの信号にキューイン音および/またはグランジがある場合、次のように追加する必要があるかもしれませんタブにします。むしろ問題の原因は、配線の位置が悪いことによる場合が多いです。Stratの場合は、タブを最適な位置に配置してください（図ページ6を参照）。歪み、ヒスノイズ、キューイン音を除去するため、楽器アンプをクリーン設定になります。まずFUNDAMENTALモード（時計回り）、次にHARMONICモードで確認してください。

（反時計回り）。タブは中央位置から始めてください。タブは、ドライバのネック側またはブリッジ側のどちらにも配置できます。キューイン音や歪みを最小限にするため、可動式の磁界キャンセルタブを、注意深くゆっくりと最適な位置へスライドさせます。ブリッジハムバッカーにタップスイッチがある場合は、タップを

歪みがよりよく聞こえます。これを判断するには試行錯誤してください。プラスチックまたは木製のスティックのみを使用してください（または指）でタブを動かしてください。金属は使用しないでください。タブの設定に影響します。

キューイン音が消せない場合は、次のトラブルシューティング（TROUBLESHOOTING）セクションへ進んでください。追加のトラブルシューティング詳細は、Sustainiacのウェブサイト、Stealth PROページ、またはINSTALLATIONページにあります。

トラブルシューティングガイド

注意：回路への配線を半田付けする前に、バッテリーを取り外してください。

お使いのSUSTAINIAC® STEALTH PRO™サステイナーは、正しく動作することを完全にテスト済みです。楽器への取り付けでは多数の接続を半田付ける必要があるため、隣接する接続がショートしてしまうような、1つまたは複数の小さな半田「ブリッジ」が発生している可能性があります。強い光の下で、拡大鏡を使って作業を確認してください。色分けされた図面で、各ワイヤを必ず再確認してください。

症状

サステイナーが動作しない

- 出力ジャックの先芯/リング接続を確認してください。最もよくある問題。
- モノラルギターコードはギタージャックに接続する必要があります（ステレオではなく）。(3-5 mA待機)
- 両方のサステイナーのグラウンド線（黒色）がポット本体に接続されていることを確認してください。（多くの人は電池のマイナスを黒色（10ピン）に接続し、ポット本体には接続しません。）

出力ジャック端子がジャックハウジングや互いに短絡していないことを確認してください。

電池が良好で（+8ボルト以上）正しく配線されていることを確認してください。

プッシュプル端子が電子機器のキャビティ遮蔽材に触れていないことを確認してください。

ドライバシールド線のはんだ短絡を点検してください。

回路基板コネクタの引き抜きや不適切な接続をチェックしてください。また、コネクタの正しい挿入を確認してください。

ON/OFFスイッチがONの位置に設定されているとき、黄色のwireを接地することを確認してください。

- ピックガードを取り付けるとき（Strat、Ibanez）に回路基板がピックアップセレクターに物理的に強く押されると、基板上の絶縁が punctured され、内部接続がギターのアースや他の電気接触部に短絡する可能性があります。

予備機器点検

注: まだ電池を取り付けしないでください。

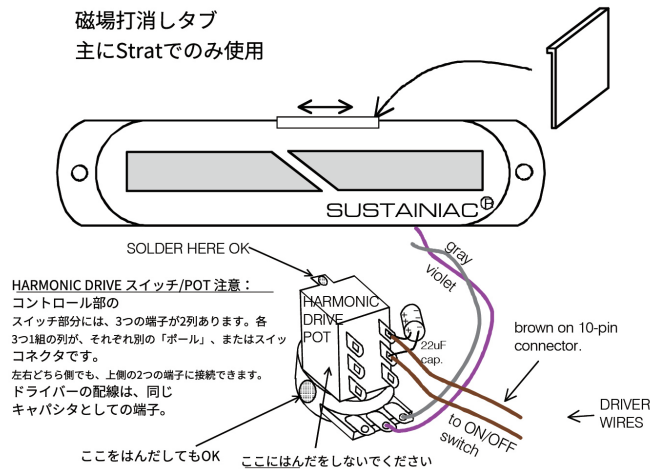
1. ギター本体のHARMONIC/DRIVEつまみを FUNDAMENTALモード最大ゲインのために最右端(時計回り)に設定します。このスイッチがPUSHED INになっていることを確認してください。(任意で) MODEスイッチをFUNDAMENTAL位置に設定します。ネックピックアップのトリムポット(10ピンコネクタ付近)を12時-1時の位置に設定します。
2. ギターアンプを CLEAN 設定にし、トレブルを上げ、ミッドレンジを下げます。これにより、サステイナーから拾えるグラウンジやディストーションをより聴きやすくなります。
3. 電池を取り付ける前に、電池の配線が逆になっていないことを確認します。電源を確かめてください。スイッチがIN (オフ) に押されていることを確認します。コネクタが正しく差し込まれていることを確認してください。電流を測定するメーターをお持ちの場合は、1アンペアフルスケールに設定し、電池の+端子と直列に接続します。
4. これから9ボルトのアルカリ電池を取り付けます。7.2ボルトしかないニカド電池は使用しないでください。電池を感じる。 温かくなる、または電流計が針を振る場合は、直に取り外して配線を再確認してください。
5. モノラルギタージャックを接続します。ON/OFFスイッチがIN (サステイナー-OFF) になっている状態で、楽器が通常通り機能することを確認します。ピックアップセレクタースイッチを操作してピックアップが正常に作動することを確認してください。サステイナーがOFFのときはドライバがピックアップとして機能します。必要に応じてNECK PICKUP TRIMPOTを調整して適切なレベルに設定します。楽器の音量とトーンコントロールの動作もテストしてください。待機電流は3-5 mAであるべきです。

6. Stratoタイプ (斜めのブリッジピックアップ) の場合、ドライバとキャビティの間に磁気調整タブを図の中心の位置に挿入します。他のギタータイプには、特に要望がない限りは付属しません。

磁気タブの取り付け詳細: Stratsおよびスラントブリッジピックアップを持つコピー機のみ付属します。ネック側がブリッジ側のいずれかを向くことができます (図参照)。楽器アンプの設定を調整します。

クリーン設定にしてトレブルを上げ、ディストーションを容易に聴けるようにします。タブをその位置へ移動させますノイズと甲高い音が最小になる場所。タブを動かす際に金属物を使用しないでください。干渉します磁力的に。良い方法は、指でタブを動かしながら大きなE弦を sustain することです。タブは位置決め後、シリコン接着剤の少量、または両面テープで固定できます。On

いくつかの取り付けでは、十分な摩擦で固定されます。



改造手順

CAUTION #1: 持続機回路基板を取り扱う前に体の静電気を放電しておいてください。静電放電が半導体部品を損傷することがあります。

- (1.) サステイナーを取り付けるのに必要な全ての部品を受け取っていることを確認します。

- (1) 回路基板 (1.1インチ x 3.75インチ)
- (2) ドライバ・トランスデューサー (黒または白、SCまたはHBサイズ、適切な取り付けネジ、2本のスプリング、磁場打消しタブ、0.5 x 0.85 in. Stratsのみ (他のギターには不要))
- (3) 雑多部品箱
配線ハーネス: 10ピンコネクタ、8ピンコネクタ。TWO SWITCH/POTENTIOMETERS、1つはPOWER、もう1つはGAIN/HARMONICS用

任意: トグルスイッチは任意でポット/スイッチ制御の代替として使用できますステレオ出力ジャック: 原機種に依存。アクティブピックアップには9ピン、トーンコントロール hookupまたは出力線にはシールド線を使用。追加の接続線: ハーネスの配線を短く切り詰めると余分な電線がたくさんできます。配線アクセサリ: ワイヤースブライス用ヒートシンクチューブ、ナイロン結束バンド、9V電池クリップ、または任意のクイックチェンジ電池ケース。ギターにEMGのようなアクティブピックアップがある場合は2個の電池が必要です。9ピン出力ジャックで両方の電池を切り離すことも可能。

SUSTAINIAC回路の取り付け

CAUTION #2: PRELIMINARY INSTRUMENT CHECKOUTの手順1-3がすべて完了するまで電池を取り付けしないでください。

CAUTION #3: バッテリーを取り付けた状態でサステイナーの配線をハンダ付けしてはいけません！

はんだ付け: 質の良い鉛筆型はんだごてを使用します。容量は25~50Wが望ましいです。最適なのは温度制御式のはんだごてで、約650°F (340°C) に設定します。ガン型の不器用なものは避けてください。酸性芯入りはんだは絶対に使用しないでください。電子機器用のロジン芯はんだのみを使用します。

- (2.) 弦とピックアップ (ある場合) を楽器から取り除きます。弦を緩めた後、ボルトオンネックやトレモロを取り外すだけでも構いません。まず、ナット付近のネックに弦をカガまたはテープして絡みを防ぎます。

- (3.) 一部のピックアップは、ハムピックアップからのシールドのために導電性箔で覆われています。これは、ネックピックアップ (ドライバ) の周囲全体と、さらにブリッジPUから取り除く必要があります。このシールドは、ドライバとの間で磁気干渉を起こし、その結果、出力信号にキーキーした音やグラウンジ (ざらつき/歪み) が生じます。「ミラー」ピックアップガードやトリムリングは問題を引き起こすことがあり、非金属製のものに交換してください。

- (4.) 作業を始める前に、取り付け計画を立ててください。ピンコネクタは、**【*超重要*】** : **8-** ックアップセレクタースイッチの近くに向けてください。ストラト、Ibanez、Les Paulタイプではギターでは、回路基板の配置を配線図に示された通りに正確に行ってください。ストラトでは、配線を短く保ち、

きれいにしようと、キャビティに収まりません。その他のギターモデルでは、取り付けを慎重に計画してください。[]

サステイナーの信号ワイヤーの一部は、電子的にギターのピックアップ信号ワイヤーへ放射することがあります。これは「クロストーク」として知られています。その結果、ギターの出力信号に「グラウンジ」(歪み) が聞こえることがあります。さらに、発振を引き起こすこともあり、通常は高いキューーンという発振音として聞こえます。最小限にするにはクロストークを抑えるために、次のことを覚えておいてください: クロストークの防止が、あなたの作業全体を支配しなければなりません設置。以下の注意事項をよくお読みください:

ドライバワイヤーを短く保つ (10ピンコネクタの茶色/灰色のワイヤー)。8ピンの白色/オレンジ色のワイヤーは短く保つーピンコネクタ (ブリッジピックアップ信号) を短く。**** すべてのピックアップ信号線を回路基板から離しておく少なくとも1/4インチ以上。特に、8ピンの白色とオレンジ色は回路基板出力ジャックの先端ワイヤをシールドするか、保護するら物理的に離す。

8ピンコネクタの紫/グレーの配線は一緒に合わせ、ギターのピックアップ信号配線から離しておく必要があります。

回路基板そのものは、立てて（縁にして）配置する必要があります。そうすることで、ギターの信号配線やコントロールの上にそのまま横置きしてしまうことを防ぎ、ギター信号へ歪み/グランジを放射するのを防ぎます。基板をギターの信号配線やコントロールの上に平らに置かなければならない場合は、基板にシールドを施すことを検討してください。これを行うには、まず銅テープで基板を覆います。次に、銅テープをワイヤーでグラウンドに接続します。最後に、銅の部分を絶縁テープで覆います。ただし、この手間をかける前にまずテストしてください。

次の配線は、グランジや発振の原因になりません： 10ピンのBLUE線とORANGE線の両方がコネクタは、中音側（ミドル）およびネックのピックアップ信号のみを伝えます。これらの信号は、サステイナーが動作中は聞こえません。黒（グラウンド）、赤、黄、緑の配線も、一般的にはグランジの問題は起こしません。

(5.) STEALTH PROコントロール：Sustainiacのスイッチ/ポット・コントロールに置き換えるため、ギターから該当のコントロールを取り外します。Stratでは、単一のMASTER TONEコントロール（ON/OFFスイッチに取り付け）により、元のNECK TONEが置き換えられます。これにより、楽器に搭載されたすべてのピックアップのトーンが制御されます。トグルスイッチ・オプション：Stratでは、少なくともトーン・コントロールのどれか1つを取り外さない限り、ボディ加工（ルーティング）を行う気がない場合、トグルスイッチのコントロールを2つ使うためのスペースがありません。

(6.) ピックガード付きのStratおよびIbanezでは、図のとおりStealth Proのプッシュプル・スイッチ/ポット・コントロールをピックガードに取り付けます。2つのコントロールの半田端子は向かい合うようにして配線の長さを最小にします。信号配線は、回路基板からできるだけ離れるように配置します。なおIbanezでは、トーン・コントロールを失わずに済むよう、Harmonic Mode制御用にボリュームとトーンの間に3つ目の穴を追加することを検討してください。（つまりStratのようにすることです。）

(7.) トーン・コントロールがON/OFFスイッチで置き換えられる場合（Stratや4ポットのLes Paulタイプのように）、元のポットからトーン・コンデンサを取り外し、図のように新しいものに取付けます。ポットが2つしかないギターでは、別のコントロールを追加しない限り、VOLUMEまたはTONEのどちらかの機能をあきらめる必要があります。

(8.) ネック・ピックアップ：ネック・ピックアップを取り外し、Sustainiacドライバーに交換します。

(9.) ドライバー：ドライバー配線をON/OFFスイッチおよび10ピンコネクタへ配線します。ドライバーのシールド線を半田付けON/OFFのポット本体またはタブ内部。プラスチック部品が溶けず、MGピックアップ（およびその他いくつかのタイプ）を使用している場合は、赤/黒のドライバーリードは図から来ており、これらのピックアップは通常とは極性が反対だからです。

(10.) 二つの配線ハーネスをそれぞれのコネクタに接続します。配線は可能な限り短くしてください。ピックアップ信号のグランジを生じさせる電氣的クロストークを避けるためです。ストラトキャスターやアイバニーズでは、取り付けは配線を短く保たなければ電子キャビティに収まりません。

(11.) 接続図に示されたようにサステイナーの配線を開始します。サステイナー配線の注意事項（グランジ/発振防止）：ステップ4をもう一度読んでください。

- Sustainiac信号線はできるだけ短く保ちます（10ピンコネクタの茶色、灰色、10ピン、Har./Gain、8ピンコネクタの紫/灰色）
- ギターのピックアップ信号線をサステイナー信号線や回路基板自体から離しておきます。ブリッジピックアップ信号入力線（白/8ピンコネクタ）をできるだけ短くし、STEALTH PRO回路基板と紫/灰色の配線から離しておきます。オレンジの配線も同様に、8ピンコネクタ。

- ギターのピックアップ信号線には、トーンやボリュームコントロール、または出力ジャックに接続されているものを含みます。ギター出力線をシールドするか、白/青/オレンジの8ピンとは離しておいてください。
- シールドから赤/黒の導体が突き出ている場合、ギター信号から離しておかなければなりません。赤/黒の未シールド長さは1インチ（25mm）を超えてはいけません。

(12.) ハーモニック/ゲイン制御ワイヤ（紫/灰色）：ハーモニック/ゲイン制御に（図、6ページ参照）これらをねじります。接続する前に一緒に束ねてください。これらの配線はギターの近くを走ってはいけません。信号線。紫/灰色の配線を長距離走らせる必要がある設置では、それ自体をシールド化することができます。これは灰色/紫色の配線をシールド付きのベアに置換すること 通常は必要ありません、を要求します。極端なケースを除いて。

まず、紫/グレーの配線をコネクタの爪から「上に」（外へではなく）引き出します。これらはV字型の爪によって保持されており、配線の絶縁体を突き刺して内側の導体と接触します（「絶縁体の変位」）。次に、細いドライバーを使って、シールド付きケーブルからの赤/黒の配線を、絶縁変位コネクタのV字型の爪に慎重に押し込みます。2つの爪は

絶縁体に食い込んで、半田付けせずに配線の素線と接触させます。コネクタ（また 損傷させないように十分に注意してください。は指）。

13. () マスタートーン・ポット：StratやIbanezのピックガードでは、ボリューム・ポットの出力からトーン・ポットへの配線が、サステイナー回路基板と平行に走っています。したがって、トーン接続はシールドする必要があります。これを行わないと、出力信号にグランジが混入します。図のとおり、付属の追加シールド線を使用してください。

14. () 出力ジャック：既存のギタージャックを取り外し、付属のステレオ・ジャックに交換します。Stratの場合、ジャック端部のいずれも導電性のジャック筐体に触れないことを確認してください。接触を防ぐために、それらを内側へ曲げる必要があります。ジャックのグラウンド端子に黒い配線（Stratの場合は8-in.）を接続します。10ピンコネクタからの緑のSTANDBY線は、リング端子に接続します。最も良い方法は、付属の2芯シールド付きケーブルの一部を使用することです（シールドをグラウンド端子へ、赤をチップへ）、そして黒い配線を使ってリング端子を、短くした緑のSTANDBY線に接続します。

15. () グランド接続：グラウンド配線は、ポット本体、または小さなタブに取り付けるのが最適です。スイッチ筐体上の。 （角型スイッチ本体へは半田付けしないでください。内部のプラスチック部品が溶けます。これによりスイッチが破損します）。すべてのポット本体は必ずグラウンド接続してください。黒いグラウンド配線をすべてのポット本体に半田付けし、さらにグラウンドが必要な他のギター部品にも半田付けします。8-ピンおよび10ピンコネクタがグラウンド接続されていることを確認します。10ピンコネクタの黒い配線は 次の部分に半田付けする必要があります。バッテリー () 配線とまったく同じグラウンド・ポイントです。異なる場所に取り付けると、脈動するグラウンド電流の影響で、ギターの出力信号にグランジが発生します。

16. () ピックアップ・セレクター・スイッチ：StratおよびLes Paulタイプのギターでは、図のとおりピックアップ・セレクター・スイッチの配線をやり直し、すべてのピックアップ信号配線を短くしてSustainiacの配線や回路基板から離してください。重要： レバータイプのピックアップ・セレクター・スイッチを備えたStratやその他のギターでは、スイッチ（ボール）側には、ブリッジ・ピックアップ接続以外のピックアップは接続されていないことに注意してください。 どれもピックアップ・セレクター・スイッチの種類は選んで構いませんが、サステイナーがONのときに、ブリッジ・ピックアップへのピックアップが接続されてはなりません。3ポジションのGibsonタイプのセレクタースイッチはボールが1つしかないため、これは適切な配線図に示すように別の方法で実現します。個別のピックアップ・セレクター用トグルスイッチがあるギターでは、ブリッジ側スイッチはネック/ミドル側のピックアップ・スイッチから分離されています。動作中、サステイナー回路基板上の内部電子スイッチは、サステイナーがONのときオレンジのOUTPUT線（8-ピンコネクタ）を白い線（ブリッジ・ピックアップ）に接続し、サステイナーがOFFのときは青い線（ネック/ミドル・ピックアップ）に接続します。

17. () 初期トリムポット設定: ネックピックアップのトリムポット（10ピンコネクタ付近）を約12時の回転に設定します。これにより、サステイナーのネックピックアップの音量をほとんどの通常時に正しいレベルに設定します。出力ピックアップ。より高く設定して一致させます。ホットピックアップ。サステイナーゲインのトリムポットを（8ピン付近）設定します。コネクタを約11時から1時の回転にします。ゲイン設定が高すぎるとハーモニックでシャーという音が生じることがあります。モード。小さな金属製トリムポットはハーモニックモードのゲインのみを調整します。通常モードには影響しません、またはMIXモード。ただし、サステイナーゲイントリムポットはすべてのモードに影響します。

18. () 事前機器点検手順の手順1〜3が完了するまでバッテリーを取り付けしないでください。

19. () 配線ミスがないか確認してください。

20. () 取り付けは完了しました。CHECKOUTセクションへ進んでください。

すべてが点検され機能していることを確認した後、提供されたワイヤタイをいくつか使用して取り付けをきれいに整え、ギター信号線をサステイナー信号線から離しておくことができます。